

熊本県立球磨支援学校 令和7年度(2025年度)学校評価表

1 学校教育目標	
1	将来の心豊かな生活や社会的自立に向けた態度、知識・技能を育てる。
2	児童生徒一人一人の能力や適性に応じた教育活動を実践する。
3	互いに励まし助け合い、たくましく生き抜く児童生徒を育成する。

2 本年度の重点目標	
～挨拶をとおして対者意識を育てる～	
1	将来の自立と社会参加を目指した自立活動の推進と共生社会の実現 (1) 本校卒業後を視野に入れた自立活動の推進と進路支援の充実 (2) 交流及び共同学習の充実
2	一人一人の教育的ニーズを把握し、発達や障がいに応じた教育の推進 (1) 児童生徒の実態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実 (2) 危機管理の徹底、安全・安心を守る教育の推進
3	基礎的な学力の向上と健康で明るい生活を送るための調和のとれた心身の育成 (1) 人権尊重、人権教育の推進 (2) いじめ防止に向けた取組の強化 (3) 性に関する指導の充実
4	教職員の専門性・資質・指導力の向上と組織的・計画的なカリキュラムマネジメントの推進 (1) 教科指導や自立活動、日常生活の指導等の専門性の向上 (2) ICT教育の充実・実践 (3) 働き方改革における効果的な教育活動 (4) 不祥事防止の徹底(児童生徒・保護者に寄り添った教育活動)
5	家庭、地域、関係機関と連携した教育活動の充実 (1) 保護者・地域社会から愛され支えられるパートナーシップ、PTA活動の充実 (2) 関係機関とのネットワーク強化及び地域支援(センター的役割)の充実

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針の具現化	学校教育目標及び重点目標を意識した実践ができたか	・職員一人一人が組織の一員としての意識を高め、本年度の重点目標(挨拶をとおして対者意識を育てる)を踏まえた日々の実践に努める。	・学校教育目標及び本年度の重点目標について共通認識を図る。 ・業績評価の面談等において、重点事項を踏まえた目標になっているか確認を行う。 ・昨年度の課題を整理し、各学部、分掌部で重点目標の達成に向けた取組を実践する。	A	・挨拶に関して児童生徒の変容が随所に見られ、今年度の学校教育目標及び重点目標を意識した教育活動を行うことができた。 ・業績評価面談で、重点事項と各人の目標との整合性の点検及び確認を行い、全職員に意識化を図ることができた。 ・昨年度の課題を各部で整理し、今年度の計画を立案した。運営委員会や学部会、面談等で進捗を確認し、取組の改善を行うことができた。

	働き方改革の推進	学校全体で働き方改革を推進することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・月45時間以上の超過勤務者の割合を15%以下にする。 ・働き方改革について個々の意識化を進め、定時退勤日の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の課題に基づき、様々な対策を講じながら今年度は目標達成を目指す。 ・労働安全衛生委員会で勤務実態を把握後、具体的な改善策を検討し全職員で共有する。 ・定期的に朝会で呼びかけ意識化を進める。 ・期首面談等で聞き取りを行い、実情に基づき改革を進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月～12月期の月45時間以上の超過勤務者の割合は全体の11.2%（12月時点）で、目標を達成することができた。職員への定期的な呼びかけや業務管理を引き続き行う。 ・面談で聞き取った情報を管理職チャットや労働安全衛生委員会等で共有し、勤務管理や業務の調整等について適宜対策を講じた。定時退勤日の意識化を、面談や個別の声掛け等を通じて継続的に働きかけている。
	業務改善	学校全体で業務改善に取り組むことができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や会議を精選し、業務のスリム化を図る。 ・ICTを活用した業務の効率化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部、分掌部で業務の本質を改めて見直し、行事や業務の精選及び内容の改善や簡素化を進める。 ・分掌業務の再編成を検討し、校内分掌業務の改善を図る。 ・Googleカレンダーの全体活用を引き続き進める。今年度はAIの活用を進める計画で、業務の効率化、負担軽減を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総務部と衛生管理者を中心に働き方改革の推進を行った。協議及び検討を行った内容を基に、学部会や運営委員会で業務の平準化やスリム化を呼びかけ、各部で改善を図ることができた。 ・行事予定表をGoogleカレンダーに完全移行をすることができ、月行事等のペーパーレス化とスケジュール管理のデジタル化・効率化を進めることができた。AIの活用も様々な業務で進めることができた。業務の効率化を図ることができた。
授業の充実	ICT機器を効果的に活用した授業実践の探究	学部ごとにICT機器をどの教科で、どのような場面で活用できるのかを検討し及び実践し、個別最適な学びに繋がることができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のICT機器に関する専門性の向上を目指す。 ・学部ごとにICT機器を活用した授業実践を蓄積する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用方法について、外部講師招聘研修を行う。 ・AARサイクルを用いて、個々の教師の授業改善を図る。 ・授業における情報機器やアプリの操作及び活用方法に関する研修を行う。 ・分掌部会や全体研修をとおして、探究の目的について共有を図る。 ・ICT機器の活用方法や児童生徒 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に外部講師を招聘し「生成AIを活用した業務効率化」及び「自立活動の授業づくり」に関する研修を実施。活用方法、自立活動の目標設定や指導の在り方について理解を深めた。 ・本校作成の「kuma-bellシート」を用いて、個々の教師が自身の指導を定期的に振り返り、指導方法及び支援の在り方を見直す機会となった。 ・6月より月1回の頻度でミニ研修会を実施（全8回）。授業におけるICTの効果的な活用の習得を目的に操作方法を共有し、専門性の向上を図ることができた。

				の変容について事例検討会を実施する。		<ul style="list-style-type: none"> ・5月に全体研修会で研究の目的の共有を図り、年間を通して学部研の中で授業検討及び実践を進めることができた。 ・学部ごとに研究授業及び授業研究会を実施。代表事例を通して、ICTの効果的な活用や指導・支援方法について全職員で理解を深めることができた。
	学習指導の改善とカリキュラムマネジメントにつながる学習評価の充実	全職員がカリキュラムマネジメントを意識し、学習評価に基づいて教育課程の編成及び改善を行うことができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な学習評価を行い、学習指導の改善に取り組む。 ・充実した授業作りのため、全職員で教育課程編成及び改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の終了時や期末に学習評価を行い、単元目標や指導内容、単元期間、学習グループ等の検討を行う。 ・児童生徒の実態を的確に把握して学習課題を明確化する。 ・単元ごとの学習評価を活用しながら、学校教育目標や学部目標を共通理解した上で、それらの達成に向けた教育内容を検討し、授業改善に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の評価を基に、全学部で学習評価を行い、次年度の教育課程編成に係る協議や検討を行うことができた。単元終了時の学習評価は学部ごとに差異があるので、今後も引き続き、研情部と評価方法について連携を図っていく。 ・児童生徒の実態や学部の実情に応じて、グループで学習を進めたり、次年度の週時間割の見直しを行ったりすることができた。 ・学校教育目標や学部目標に加えて、教育課程編成スケジュールを全職員に周知し、次年度の学習内容や単元配列について計画的に検討を進めることができた。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	キャリア教育の視点を深めることができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育で育てたい力について職員研修、PTA研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点で整理した育てたい力を職員研修等で共有する。小、中、高一貫したキャリア教育の推進を図る。 ・PTA進路研修部と連携し、保護者のニーズに応じた研修会を実施する。 ・卒業後の進路先に関する職員研修を行い、職員の理解を深め、生徒自身が納得して進路 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「育てたい力」について、これまでの実際の対応事例を参考に、夏季職員研修の中で現場実習の評価表を活用しながら共通理解を図った。 ・PTA進路研修担当者と協議し、事業所見学、進路先の紹介、就労・生活支援センターみなよしの紹介など、保護者にとって有益な進路研修を実施することができた。 ・夏季休業中に高等部卒業後の進路に関する職員研修を実施した。また希望する職員が、卒業生の職場を訪問する追指導研

				決定するための指導に繋げる。		修を実施し、進路指導に関する職員の意識向上に繋げることができた。
	進路支援の充実	一人一人の児童生徒に応じた進路指導ができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、職員に向けた進路だより等をとおして情報を発信する。 ・生徒や保護者が具体的なイメージをもちながら実習先や進路先を決められるように、丁寧に面談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路だより、PTA進路研修会（すまいるサロン）等で本校の進路状況や働くために必要な力などの進路情報を発信する。 ・生徒と保護者が事業所の仕事内容や条件を分かりやすく閲覧できる「事業所ガイドブック」を改良し進路面談で活用する。 ・高等部3年生の進路決定においてケース会議を行い組織的に生徒の適性と進路先を検討する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路だよりを今年度は8号発行した。内容としては「就労選択支援」「相談支援事業所」など進路についてのトピックを掲載する等、積極的な情報発信を行った。 ・今年度はガイドブックを電子ファイル化し、タブレットPCで閲覧できるようにしたことで進路面談や進路学習で活用することができた。新規事業所や実習先の追加掲載も進めている。 ・高等部3年生の進路面談には、原則、進路指導主事が同席し、保護者や関係機関と連携や調整を行いながら、個々の適性に応じた進路先を決定することができた。
生徒(生活)指導	問題事案、問題行動の未然防止	生徒指導等に関わる情報を共有し全職員の共通理解のもとで生徒指導を実施することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で一貫した生徒指導ができるよう生徒指導上の問題事案等について全職員の共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌部会で生徒指導に関する情報共有を行う。 ・校内研修や全体朝会等を活用し、生徒指導に関する指導事案や指導事例を周知する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌部会で各学部の事案を共有し、学校全体の課題、指導の方向性を確認することができた。 ・本校児童生徒の指導上の課題について、会議で得た外部専門家からの助言を周知し共通理解を図った。指導が必要な事案については学部職員間で迅速に適宜共有することで、一貫した指導や対応を適切に行うことができた。

	<p>安全な登下校指導及び関係機関との連携</p>	<p>児童生徒が安全に安心して登下校を行う体制を構築することができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自力通学生に対する登下校指導と通学路の安全確認を徹底する。 ・自転車通学生について、ヘルメット着用や法令順守の必要性を指導する場を設定する。 ・利用する児童生徒が安全に安心して通学バスを利用できるよう、体制の調整を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な登下校指導に加え、警察署やPTAと連携した通学指導を行う。 ・学部集会等での定期的な指導に加え、警察署等の外部機関を招聘した指導の場を設定する。 ・バス会社との情報交換会、学期ごとの乗車指導、保護者向けの説明会を実施し、運行において安全かつ安心な乗車体制を整える。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・警察署と連携した通学指導を行うことで、イヤフォン着用の危険性など具体的な指導に生かすことができた。 ・自転車利用時のヘルメット着用の重要性や、法令順守の大切さについて警察の協力により生活に結び付く指導が実施できたことで生徒の理解を一層深めることができた。 ・バス担当職員を中心に添乗員との情報交換を日々丁寧に行い、座席変更や乗車指導等の対応を進めることができた。各担任やバス会社との連絡や調整を細やかにを行い、安心で安全な乗車体制を整えることができた。
<p>発達支持的生徒指導に関する取組</p>	<p>集団生活を送る上で必要なルールやマナー、周囲と協力する態度を育むことができたか</p>	<p>・児童生徒が、集団生活や生活目標を意識した学校生活を送ることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校朝会での生活目標発表時に集団生活における注意点について理解が進むよう担当教師が解説を行う。 ・分掌部会で、生活目標が児童生徒の実態やニーズと合っていたか検証する。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活におけるきまりやルール、いじめ未然防止のためのポイントなどを生徒指導主事より説明することで、理解を深めることができた。また生活目標の達成状況を発表する場を設定したことで、各学部での具体的な取組を互いに知る機会となり、目標をより意識して生活する姿が見られるようになった。 ・生活目標において、人との関わりに関する目標に加え、生活環境を整えることに関する目標を設定した。新たな視点で、集団生活に必要なスキル及び態度の育成につなげることができた。 	

<p>人権教育の推進</p>	<p>人権教育に関する取組</p>	<p>人権教育の推進はできたか</p> <p>児童生徒にとって理解しやすい人権教育の授業実践ができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で人権教育を推進する体制を整える。 ・職員研修をとおして職員の人権意識の深化を図る。 ・児童生徒の発達段階に即した、具体的な人権教育の推進を図る。 ・授業実践例や教材の集約及び整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三次とりまとめを踏まえた授業実践に関する学部研修や、人権課題に係る当事者を招いた職員研修を実施する。 ・子どもの権利条約等を基に「人権」や「人権が尊重された状態」について、学部間の系統性を考慮して指導する。 ・職員が活用しやすいように、教材の集約と整理を行う。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体研修において「第三次とりまとめ」を踏まえた授業づくりの基本的な事項を確認できた。各学部の実践へどのように取り入れるか学部ごとに検討し、授業づくりに生かすことができた。講師招聘による同和問題（部落差別）に関する研修では、当事者の話を聞くことで、当事者の立場に立った授業づくりについて理解を深めることができた。 ・中学部、高等部の人権学習の中で、「子どもの権利条約に関する授業」を計画的に実施し、人権に関する身近な事項について指導することができた。 ・職員共有ハードディスク内で授業実践例や教材を共有できるよう整理を行った。
<p>命を大切にす る心を育む指 導</p>	<p>命を大切にす る心や人権を 尊重する態 度を育むこ とができるか</p>	<p>自他の命を大切にす る心や人権を尊重する態 度を育むことができるか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分が大切にされている」と児童生徒が実感できる環境づくりを行う。 ・「インターネット上の言動」等に関して、授業や日常生活における指導の中で、児童生徒の人権感覚の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科等の授業で「自己肯定感を育む支援」「自己選択、決定の場」等を意識して工夫を行う。 ・授業や日常のやり取りの中で児童生徒のインターネット上の言動の傾向を把握し、指導が必要な場合は本人が問題点に気付くことができるよう職員間で連携して指導を行う。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部の人権学習や人権週間の取組、人権作品展への出品などを通して児童生徒の実態に合わせて指導を行うことができた。人権が尊重された状態を具体化して児童生徒に伝えることについては更に工夫が必要である。 ・インターネット上での人権侵害については、顔を合わせない状況では齟齬が生じる可能性があること、掲載した内容等が簡単に取り消せないことなどを挙げ、ネット上での言動における人権尊重の重要性を指導することができた。

いじめの防止等	いじめ問題の未然防止対策	児童生徒の実態把握と様子の観察を日頃から行うことができたか	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の様子の変化の有無について日常的に学校全体で把握に努め、いじめの起こりにくい環境や状況をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に担任間や学部職員間で児童生徒の様子に関して情報共有を行う。 全校児童生徒のアンケート調査結果を活用し、発信を受けとめる体制や相談しやすい環境づくりを行う。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃の様子が気になる児童生徒の情報を、学部会や朝会等で迅速に情報共有し、いじめ問題等の未然防止に努めることができた。 7月に高等部生徒向けアンケートを、11月には県立学校「心のアンケート」を全学部で実施した。また年に2回、いじめ問題について学年や学級職員間で協議する場を設定する等、いじめ問題把握のために徹底して取組を行った。また各学部で、子供たちが困りごとを相談しやすい雰囲気づくりにも努めた。
	いじめ問題の組織的対応	いじめ問題について組織的かつ継続的な対応に取り組むことができたか	<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題に対する職員の感度を高め、組織的な対応を行う。 いじめ問題について原因や背景及び状況等を把握し、当事者間の継続的な指導支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修を行いいじめ問題に係る組織的対応の重要性について共通理解を図る。 いじめ防止対策委員会で、いじめ問題に対する適切な対応や、解消に向けた継続的な取組等について確認し、必要に応じて全職員で情報を共有する。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ問題未然防止の研修を実施し、いじめ問題に対する組織的な対応や情報集約担当者の業務について確認を行った。 いじめ事案はなかったが、いじめ未然防止の取組（問題行動への対応、保護者との連携等）について外部専門家から助言を受けた。全職員に周知を図り、今後の対応の参考となる知識やポイントを職員間で共有することができた。 <p>※今年度、これまでのいじめ認知数 0件</p>
地域支援	センタ－的機能の充実	人吉球磨地域の特別支援教育の拠点として、地域へ向けて積極的な発信と取組の充実を図ることができたか	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校等や関係機関へ本校の役割や特別支援教育の情報を積極的に発信する。 本校コーディネーター及び職員の専門性向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「球磨支援通信」の内容をさらに充実させる。 巡回相談や研修等の様々な機会において巡回相談等について周知し、地域の特別支援教育の充実を図る。 適切な就学、進学指導が行われるよう、様々な場面で進路指導に関して理解、啓発を行う。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在2号まで発行。通級による指導に関する情報を含め、地域の実情に応じた情報提供をすることができた。 巡回相談の活用について周知を進め、例年より依頼件数が増えた。特別支援学級の教育課程や自立活動、交流及び共同学習に関する現状と課題を知ることができた。 小学校（小学部）就学へ向けて年中児段階の教育相談が定着してきている。中学校、高等学校進学（中学部、高等部進学）に関して、早期からの相談の大切さを引き続き呼び掛けていく。

			<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や事例検討会等の実施により、本校教職員及び本校コーディネーターの専門性向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員複数同行の巡回相談の実施は1回だった。教育相談に対応する各学部主事との連携、分掌部会での情報提供で、巡回相談等の実情や県内の現状と課題を部員と共有することができた。 ・夏季休業中にSGによる児童生徒理解に関する研修を実施した。また、強度行動障害に関する任意研修を実施した。今後も他の分掌部と連携しながら、職員のニーズに応じた研修を実施していく。
--	--	--	--	--

<p>保健安全管理</p>	<p>学校保健の充実</p>	<p>う歯及び歯周疾患の予防に向けた指導の充実と歯科受診等の家庭への啓発が図れたか</p> <p>性に関する指導の充実が図れたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒が、自らの口腔状態に対して関心をもち、自分の歯や口を健康に保つための行動を選択及び実践する力を育む。 ・ 歯科受診率の向上を目指し、家庭に向けて積極的な啓発活動を行う。 ・ 性に関する指導について、職員や保護者の悩みの解消と指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯垢の染め出しや口腔内を観察する機会を設け、自分の歯や口への興味関心を高める。 ・ 11月に歯磨きの巡回指導を行い丁寧な歯磨きと定期受診を促す。 ・ 6月、11月に歯と口の健康に関する情報を発信する。 ・ 障がい児者の歯科診療対応施設について家庭に情報提供し、歯科受診率の向上を図る。 ・ 全校児童生徒の保護者を対象にアンケートを実施して、家庭の困りごとや学校への要望を把握する。 ・ 指導方法や困り事を職員間で共有し、事例検討や課題解決のためのグループワークを取り入れた研修を行う。 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健の授業で歯垢の染め出しを行った。口腔内を鏡や写真で観察することで、より丁寧なブラッシングの意識付けとセルフケア能力の向上を図ることができた。 ・ 6月に歯磨き指導、11月に給食中の巡回を行った。巡回時には、姿勢保持や咀嚼の状態等、喫食の実態を把握することができた。 ・ 11月は保健日より未発行で、冬季休業前の受診勧告が十分にできなかった。 ・ 6月の保健日よりで紹介した「障がい児者歯科診療対応施設検索ページ」が閉鎖されたことにより、保護者への情報提供ソースが不足した。今後は、学校歯科医や人吉球磨歯科医師会から積極的に情報を収集していく必要がある。 ・ 全家庭を対象にアンケートを実施し、68.4%の回答を得た。学年別の集計結果を職員で共有したことで各学年の課題について共通理解が図れた。 ・ 性に関する指導について、夏季休業中にグループワーク研修を行った。指導場面での困り事の共有と課題解決のための話し合いを行い、活発な意見交換ができた。
---------------	----------------	--	--	---	--

	学校安全の充実	安全管理、生活安全に関する取組の充実による安全で安心な学校づくりができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検の確実な実施と、その後の迅速な対応を目指す。 ・災害発生等の緊急時対応について、職員が十分に理解し適切に対応できるよう危機管理マニュアルの確認や見直し、訓練の実施を行う。 ・職員の危機管理意識の向上を目指しヒヤリハット報告の目標件数を年間50件とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検を確実に実施できるよう、集計シートの改善を行う。 ・安全点検で異常が見つかった際は点検者と事務部で連携し、迅速に対応（調査修繕、業者依頼等）する。 ・事前に避難経路や人員報告、通報等の最重点事項について、全職員で共通理解を図る。 ・アンケート等で課題点や改善点を把握し、危機管理マニュアルの見直しを行う。 ・ゆうnetへの掲載や朝会での連絡をとおして、全職員での情報共有を行う。 ・年2回、ヒヤリハット事例の分析を行い、傾向や具体的対策について報告する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに自動集計シートを活用したことで、確実に集計し、校内の安全を確認することができた。 ・異常があった際には点検した職員ですぐに対応を行った。対応が難しい場合には事務部に報告することで、迅速に修繕を進めることができた。 ・ヒヤリハット事案が生じた際は、校務支援システムへの掲載と朝会を通して職員に情報共有し、危機管理意識を促すことができた。また、前期のヒヤリハット事案の分析を行い、事案内容や要因について、全職員と共有することができた。 ・ヒヤリハット件数は24件あった。（R8.1/9時点）。全職員が今後も危機管理意識を高く保てるよう、朝会等をとおして積極的なヒヤリハット報告を促していく。
	防災教育の充実	地域・関係機関と連携した防災教育を推進することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、関係機関等と連携し、防災教育の充実を図るとともに、地域に向けて取組の発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の回覧板等で訓練等の周知を行い、理解啓発を図る。 ・防災教育の取組を学校ホームページや通信で発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の回覧板で初期対応訓練や避難訓練について周知を行い、地域の理解啓発に努めることができた。 ・学級通信等で、避難訓練の実施状況等を周知した。消防署と連携し、避難訓練の際には消火器体験やスライドを用いた振り返りを取り入れるなど訓練内容の充実を図ることができた。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	総合型コミュニティ・スクールによる地域との連携	コミュニティ・スクールの円滑な運営ができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会や保護者及び職員アンケートにおいて、学校評価や取組の検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を年に3回実施する。授業参観や協議の場を設定し、本校の教育活動についての意見交換や評価等を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・予定どおり年3回の協議会を実施した。会議の中で委員と活発な意見交換を行い、委員からの評価や助言等を基に自立活動や進路指導等の教育活動の改善及び更なる充実に繋げることができた。

<p>保護者・地域社会から愛され支えられるパートナーシップの充実</p>	<p>保護者、地域から信頼される学校づくりを推進することができたか</p>	<p>・地域、関係機関への広報を推進する。</p> <p>・隣接する多良木中学校との連携協力を深める。</p>	<p>・各種行事、学習活動や地域支援、進路に関する情報発信の更なる充実を目指し、積極的にホームページの更新を行う。</p> <p>・各種メディアの取材等を活用し、地域、関係機関等に本校の教育活動を広報していく。</p> <p>・職員合同の会議や研修会を定期的に開催する。双方の交流を深めながら、両校で協働する教育活動を積極的に実施する。</p>	<p>B</p>	<p>・全校及び各学部の取組や進路情報等、定期的かつ積極的な情報発信を行った。年間通して、本校の取組を積極的に発信し続けるスタンスを保つことができた。また行事時は新聞社に取材依頼を行い、発信を行った。</p> <p>・今年度も多良木中職員との合同研修会を実施した。共に学ぶ機会を通して、昨年度からまた一步関係性を深めることができた。多良木中吹奏楽部の協力を得て、本校文化祭で演奏を披露いただいた。児童生徒の活動の充実に繋がり、交流を深める機会となった。今年度も文化祭で近隣校との作品交流を実施した。本校の教育活動の理解や啓発を促進しながら交流校の取組に学びを得る機会にもなった。</p>
<p>交流及び共同学習の充実</p>	<p>各学部の実状に合わせて、地域との交流及び共同学習の充実を図ることができたか</p>	<p>・近隣の学校との学校間交流において、相互の児童生徒が目的に沿った交流及び共同学習が実施できるよう、更なる充実を目指す。</p>	<p>・学部ごとに年間における学校間交流の内容の検討や年度末の反省を行い、一層の充実を目指す。</p> <p>・交流校と事前に十分な打ち合わせを行い、直接交流や間接交流など各学部の実状に合わせた学習を実施する。</p>	<p>B</p>	<p>・学部ごとに担当者間で打ち合わせを実施し、実施時期や内容の確認、実施後の反省を行った。成果と課題をふまえ、次年度に向けて意見交換をすることができた。</p> <p>・児童生徒の実態を考慮した計画を、担当者同士で綿密に立てることで、各学部の実情に合った取組を行うことができた。一方、交流校との日程調整が難しく、直接交流が実施できない学部があった。学部の実情やねらいを踏まえ、実施の在り方について検討する必要がある。</p>

<p>4 学校関係者評価</p> <p>【ICT・AI活用に対する期待】</p> <p>○校長をトップとした意識改革が功を奏した。Googleカレンダーの定着やAI活用を、校長のリーダーシップによる成果として高く評価する。</p> <p>○教員の業務効率化（要約、目標設定、教材作成等）に留まらず、今後は「子供たちがAIを使いこなす学び」へ繋げてほしい。</p> <p>【子供の安全と教職員の配置】</p> <p>○ヒヤリハットと人的環境について。飛び出し等のヒヤリハット事案に対し、単なる注意だけでなく、安全に学べるための「人的な体制確保」を県教委へ働きかける必要性がある。</p> <p>○寄り添いと負荷のバランスについて。職員の温かい言葉掛けは称賛に値する。一方で児童生徒の目標達成のために適度な「負荷」をかける教育的視点も大切にしてほしい。</p>
--

【地域・他校との連携強化】

- 多良木中学校の教員がもっと特別支援教育を学ぶべきである。今年度に引き続き球磨支援学校での授業見学や交流及び共同学習を積極的に行いたい。
- 早期からの教育相談の促進が大切だと感じた。例えば中学校で言えば中3になってからではなく、中1、2年での早い段階からの巡回相談活用を校長会等で進言したい。

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標に対する評価

児童生徒における「将来の心豊かな生活」や「自立と社会参加」の実現を目指す学校教育目標の達成に向けて、校長のリーダーシップの下で、職員一人一人が各学部・学年間の連携を柔軟に行いながら様々な課題に組織的に対応し、適切に職務を遂行することができた。

12月から1月にかけて保護者と職員に実施した令和7年度学校評価アンケートの項目「学校への満足度」では、保護者95.9%、職員100%（A：満足している、B：だいたい満足している→AB評価の計で算出）とともに高評価を得ており、概ね達成できた。

2 本年度の重点目標等に関する評価

○校長が掲げた重点目標「挨拶をとおして対者意識を育てる」については、様々な取組により教職員、児童生徒共に意識と行動の変容が学校全体としても確認でき、挨拶が自然かつ活発に行われる学校となった。

○令和7年度の教育活動全体を振り返ると、ICTやAIを戦略的に活用した教職員の業務効率化とそれによって生み出された時間を児童生徒へのきめ細かな指導に充てるという、非常に先進的かつ実効性の高い運営がなされた一年であったと評価できる。

○学習指導面においては、高等部の「自己理解」を深める授業実践が特筆される。生徒が自分自身の特性を内観し、自己肯定感を高める取組は、社会自立への基盤を作る上で極めて重要であり、委員からも継続を望む高い評価が得られている。

○重点目標に掲げた挨拶指導の徹底は、委員からの評価にも繋がっており、学校が掲げる「社会で生き抜く力の育成」を目指した取組の一環として、着実に成果を上げることができた。

○ICT・AIの活用については、県内でも先駆的な役割を果たしている。Googleカレンダーによる校務やスケジュールの視覚化と共有体制の定着。講師招聘研修で学んだ生成AIを活用した自立活動の目標設定、行事の制作活動、膨大な資料の要約等に活用することで、教職員の事務負担を大幅に軽減した。これは単なる効率化に留まらず、校長のリーダーシップのもとで「働き方改革」と「教育の質向上」を両立させた好例でもある。本年度は「新環境での安定した学び」と「革新的な校務運営」が両立された極めて充実した年度であったと総括できる。

6 次年度への課題・改善方策

1 保護者との双方向的なコミュニケーションの強化

学校評価アンケート（保護者版）で、各項目において全体的には高評価を得たが、質問に対し「わからない」という回答が散見された。この背景には、学校の情報発信が十分に届いていない、あるいは活動が一部の保護者に固定化されている現状がある。次年度は、学校からの発信内容をより具体化して積極的に届けていくことに努め、PTA活動の意義や成果等も全保護者に可視化していく工夫が求められる。また、いじめやトラブルの未然防止に関してはたとえ些細な事案であっても「心のアンケート」やスクールソーシャルワーカーとの連携を通じた対応状況を丁寧にフィードバックし保護者の安心感を醸成する取組を強化していく。

2 ICT活用のフェーズの移行

「教員の業務効率化」から「児童生徒の学びの深化」へと移行させることが挙げられる。今年度、教職員がAI等を使いこなす土壌は少しずつ整えてきた。今後は学校関係者評価にもあったように、子供たちが将来、社会でAIを道具として使いこなすためのリテラシー教育やタブレット等を活用した主体的・対話的な学びをさらに促進するカリキュラムの構築が期待されるため、発展的な教育課程検討を進めていく。

3 安全管理と人的環境の整備

新校舎での生活が定着する中で、教室からの飛び出しや物品管理などのヒヤリハット事例への対策をより強固にする必要がある。教師の人員不足という慢性的な課題はあるが、どのような事態においても児童生徒が安心・安全に学習できる環境を常時保障できるよう、ボランティアの活用や、柔軟な体制で指導・支援を行なうことができるような組織作りを進めていく。

4 進路指導の早期化

小学部段階から高等部での学びや卒業後の進路先の現況、生活イメージ等を共有する機会を増やしていくことが、保護者の不安を解消し、連携を深める機会となる。進路指導の早期化を実現することで、児童生徒一人ひとりの特性に応じた切れ目のない支援体制の確立と、系統性及び一貫性のある指導・支援の充実を目指す。